

# 朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校

児童数 1096名

令和8年1月8日号



紅白歌合戦を見て、今までの授業スタイルを振り返りました 校長 小島 孝之



健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。保護者の皆様、地域の皆様、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、今日から第3学期が始まりました。3学期は、今の学年のまとめをするとともに、新しい学年に向けての準備をする学期でもあります。一人一人が一日一日を大切に過ごし、自信を持って、卒業・進級の日を迎えてほしいと願っています。

昨年のこととなります。2025年の紅白歌合戦を見ていた時のこと、「RADWINPS」さんが『正解』という曲を歌っていました。2024年の2月に23枚目のシングルとして発表しており、この楽曲をご存じの方もいらっしゃると思います。私も紅白の舞台でこの歌詞を聴き、あらためて「学校の授業スタイル」に焦点化して振り返るとともに、深く考えさせられました。紙面の関係で抜粋となります。一部歌詞を紹介させていただきます。

〈拔粹〉

.....なに一つ見えない 僕らの未来だから  
答えがすでにある 問いなんかに用などはない  
.....ああ 答えがある問い合わせを 教わってきたよ そのせいだろうか  
    僕たちが知りたかったのは  
    いつも正解など大人も知らない  
    喜びが溢れて止まらない 夜の眠り方  
    悔しさで滲んだ 心の傷の治し方  
    傷ついた友の 励まし方  
.....次の空欄に当てはまる言葉を  
    書き入れなさい ここでの最後の問い  
    「君のいない 明日からの日々を  
僕は／私は きっと □□□□□□□□□□□□□□□□□□  
制限時間は あなたのこれから的人生  
解答用紙は あなたのこれから的人生  
    答え合わせの時に私はもういない  
だから 採点基準は あなたのこれから的人生  
    「よーい、はじめ」

※……、アンダーラインは小島

特に、アンダーラインを引いている『答えがある問い合わせを教わってきたよ』という歌詞が私の胸に深く刻まれました。私たちが行っている授業の多くは、正解があるものに対して答えを出していく形です。もちろん小学校段階で基礎・基本となる知識の習得は必要です。しかし、それだけでは、子供たちが自らの人生を渡っていくときに、道に迷うことが出てくると思っています。なぜそれが予測できるのか。それは、我々大人の社会が、正解のない答えに対して日々考え、最善策を模索し、行動していることばかりだからです。人生とは、正解がない答えに対して、多くの人とコミュニケーションを取りながら周りの人と折り合いをつけて前を向いて進んでいくことだと思っています。

我々六小の教職員は、子供たちに対して、すでに用意されている答えを獲得していく授業を行うだけではなく、正解がない答えに対して子供が問い合わせをして、お互いに考えを交流し、納得解を導き出していく授業をこれからも行なっていきます。